

世界観とまんが教育

総合教育としてのまんが表現の可能性の研究

MANGA EDUCATION AND "WORLD VIEW" Study Of The Possibility Of Manga As A Comprehensive Education

.....
中島 千晴 元・先端芸術学部まんが表現学科 実習助手
大塚 英志 元・大学院芸術工学研究科総合アート専攻 特別教授
尹 聖喆 大学院芸術工学研究科 助手

.....
Chiharu NAKASHIMA Department of Manga Media, School of Progressive Arts, Former Assistant
Eiji OTSUKA Graduate School of Arts and Design, Former Special Professor
Seongcheol YUN Graduate School of Arts and Design, Assistant
.....

要旨

「世界観」と「趣向」を用いたまんがの制作手法は研究者による仮説のみで実証はされていなかった。本研究では、国内の文学作品、国外の文学作品を用いた実作を通しその検証を行った。国外の文学作品を用いるのは、帝塚山学院の美術科が行っている総合教育としてのまんが制作と、「世界観」と「趣向」モデルのまんが制作手法の合致を確かめるためでもあった。

結果として、教育としての歴史的・文化的知識がまんが制作にあたる取材を通すことにより、地理的知識として具体性を持ち、一つの「世界観」として学生に深い理解を得させるものだと分かった。

また、海外ワークショップにおいても、「日本のまんがの描き方」を歴史的・文化的背景の説明と実技の組み合わせの授業を行う事により、理解度が増すことが認められ、総合教育としての効果は高い事が立証できた。

Summary

Demonstration has not been only hypothesis by researchers production techniques of comics with the "world view" and "taste". In this study, we performed the validation through a real work with literary works in the country, the literary works of the country abroad. The reason for using the literary works abroad, it was also to ascertain manga and production as a general education art department of Tezukayama Academy high school has done, the match of manga production techniques as "world view" and "taste" model.

As a result, it was found by the historical and cultural knowledge as education through the coverage falls cartoon production, and something that has a specific property as a geographic knowledge, making obtaining a deep understanding to the students as a single "world view".

The overseas workshops, that by which classes are conducted for a combination of practical and description of the historical and cultural background of the "how to draw manga in Japan", understanding the degree of increase was observed, and the effect of a comprehensive education that it is high could be proven.

1. 目的

二次創作は、元ある作品の世界観を、様々な人が千差万別の方向から作品を見、再構築することで新しい作品が作られ、発展してきた。この二次創作における作品の供給方法は、大塚英志著『物語消費論¹⁾』において日本の伝統芸能の歌舞伎における「世界観」と「趣向」(図1)と同じ構造を持ったものとして指摘されているが、検証や手法の確率はされていない。

また、この「世界観」を用いた作品制作の思考の過程は、一部の美術系高等学校の教育にも試験的に用いられており、教育現場での活用の可能性を孕んでいるものである。

本研究は、「世界観」と「趣向」の制作方法を作品制作の中で実証し、一つの手法として確立させる事で、教育分野での応用を目指す事を目的とする。

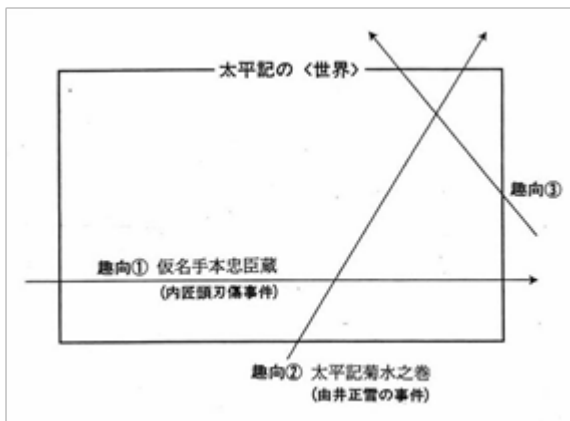


図1)世界観と趣向モデル

2. 研究概要

1) 国内での方法論の検証

本研究者はまんが作品「恋する民俗学者²⁾」(角川書店)の連載を2013年より始めた。民俗学者の柳田國男を題材にした伝記的作品であり、この作品の中で「世界観」と「趣向」の方法論の検証を行った。方法論の検証は、以下の順序を追って制作をした。

① 世界観と趣向の決定

世界観は「明治期の文学界」とする。日本の近代文学の成立は明治期に始まっている。柳田國男は青年期に新体詩人として文学界に関わっており、自然主義文学を成立させ

た田山花袋は「松岡物」という恋愛ものの作品群で柳田國男をモデルとした作品を発表し、また柳田國男も自身の恋を歌った歌を残している。

趣向は「多文化社会における若者のアイデンティティ」とする。明治期の青年は、前近代と近代の狭間において、前近代には日本の文化になかった“自我”を海外の文化や文学の流入により意識し、“こころ”を持つようとしていた。“こころ”を自覚しようとした青年は、恋愛(=LOVE)をすることでこころを得ようとする。柳田國男も上述のように恋の歌を歌っている。最終的にアイデンティティを民俗学に求めた柳田國男は、いかにして文学で“こころ”を得ようとし文学界から離れていったのか。この視点を「趣向」とする。

② 歴史的文化的「世界観」の把握と新たな「世界観」への検証

柳田國男、田山花袋の作品、文献や書簡などの講読をし、時代・人物の検証を行う。柳田國男の自伝「故郷七十年³⁾」では、自身の新体詩は実体験ではなく、題詠=うそであると“こころ”の存在を否定している。

しかし岡谷公二氏の研究(「柳田國男の恋⁴⁾」)から、田山花袋の「松岡物」は柳田國男の恋愛体験を元に描かれた物であることを確認し、また、田山花袋に自身の恋愛を書簡で伝えていることも分かった。

③ 世界観の再構築

①②を元にして、ストーリー、視点・キャラクター設定、ストーリーの軸などのまんが化するにあたっての「世界観」を柳田國男の史実の大枠の中で再構築する。ストーリーには田山花袋の「松岡物⁵⁾」のストーリーや新体詩を組み込み、柳田國男を田山花袋視点で語ることにした。

④ データベース型のプロット制作

柳田國男の著作、研究書、田山花袋の「松岡物」、周辺の文学者の作品など⁶⁾から抜き出した記述を再配置し、ストーリー中のエピソードとして用いる。その際、作品の描写をキャラクターの内面描写とつなげることで再構築を行い、そこからセリフや演出を広げていく。プロットでは主に一話分の感情の流れを主体に構成する。

⑤取材による「世界観」の地理的把握

作品ごとに、ストーリーに関わる人物や舞台となる場所、明治期の文化記録の残る博物館等の取材を行い、資料収集を行った。背景、風景の中に人物を配置して演技を行なわせるため、特に写真撮影やスケッチなどを行い(図2)、絵コンテに起こすまでにプロットのイメージを具体化しておく。



図2)柳田国男生家、兵庫県福崎町

⑥絵コンテ、原稿制作

プロットを元に1話40ページ程度の絵コンテを制作、プロットからエピソード中の内面描写などに肉付けし、キャラクター像を明確化させ演出を再考し、決定稿を出していく。

2)高等学校へのヒアリング

元・帝塚山学院高校の美術科の兵藤慎先生に授業内容、意図・成果などのヒアリングを行った。

帝塚山学院高校の美術科では、2年次にイタリアの村に一週間滞在し、スケッチなどを行い帰国後、イタリアの村を舞台としたまんが作品を制作する授業がある。イタリアに行く前に滞在先の歴史などの授業を行い現地で実際に物を見ることで、知識と実体験がつながり知識として蓄積されていくという。また、「イタリアの村」という世界観に身を置いた上でまんがにアウトプットする中で、学生それぞれの解釈、表現が生まれる。

3)海外での方法論の検証

1)の国内での検証を元に、2)の高校の授業方法を実践し、

作品制作を行った。

ここでは、制作の順序を入れ替え、①舞台の想定②文献購読③取材④考証⑤世界観の再構築⑥原稿制作の順で行う事とした。1600年前後のイギリスを舞台にすることを想定し、世界観の再構築のためのダミー原稿を制作した。(図3)

「世界観」は1600年前後のロンドン文化とし、「趣向」には、働く自立した女性のアイデンティティをおく。

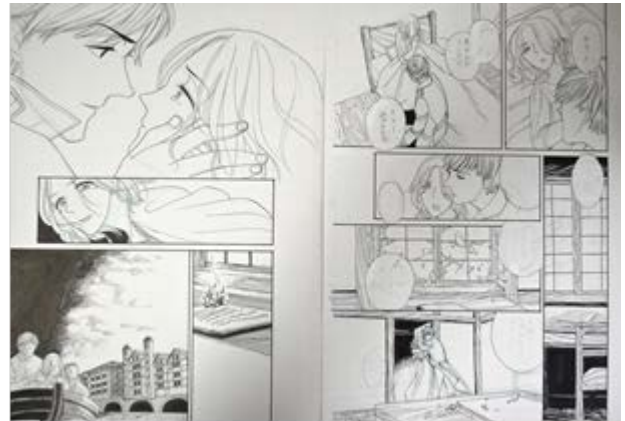


図3)ダミー原稿一部

4)海外ワークショップでの総合教育の実践

フランス・トゥールーズ、カナダ・モントリオール、デンマーク、韓国、中国において「日本式まんがの描き方」のワークショップを行った(図4)。その中で本研究の共同研究者である大塚英志が、日本の文化とまんがの成立過程を関連づけて授業を行った上でまんがの基礎的な手法の実習授業を行った。それにより、日本のまんがを学ぶ海外の学生は、手法の意図、目的をすばやく理解し、自身の課題に還元していることが認められた。



図4)フランス・トゥールーズでのワークショップ

3.結果

「世界観」と「趣向」の手法による「恋する民俗学者」の作品制作で、この手法が非常に効果的であることが分かった。本研究では、少女まंगा的手法の足がかりとなる方法論の組み立てができた。

また、3における2の検証も、元の「世界観」の地理把握を先に行う事で、考証の際に「世界観」の文化的把握を素早く行う事ができた。一方で、先行したイメージと事実との間をいかに埋めていくのか、が問題点としてでてきた。この二つの方法は、想定する作品の性質によって選択すべきものであると考える。

手法の順序入れ替えを行った場合の作品の変化も今後検証が必要である。

また、総合教育の観点においては、まんがを通し国語・社会・歴史などを関連づけて学習でき、学生それぞれの視点を育てる事が可能であると考ええる。

4.今後の予定

本研究者は、2014年度9月より、フランス・トゥールーズのまんが学校で本研究を元にした授業を1年間行う。1年間の授業で得た成果を元に、教科書を日・仏両言語で制作する。

脚注

注1 大塚英志、『物語消費論』、新曜社、1989年

注2 大塚英志・中島千晴、『恋する民俗学者』、KADOKAWA、2013年

注3 田山花袋、「わすれ水」「かた帆」、『少女の恋』、隆文館、1907年

注4 柳田国男、『故郷七十年』、のじぎく文庫、1959年

注5 岡谷公二、『柳田國男の恋』、平凡社、2012年

注6 例えば以下を参照した。

森鷗外：「我百首」著作編『森鷗外全集第一巻』岩波書店（1952）、「普請中」『森鷗外全集第7巻』（1972）、「於母影」『森鷗外全集第19巻』（1973）、「舞姫」『森鷗外全集第38巻』（1975）

荻原雄一編著：『舞姫 エリス、ユダヤ人論』 至文堂（2001）

嘉部嘉隆編：『森鷗外「舞姫」諸本研究と校本』桜楓社（1988）

小平克：『森鷗外論 「エリーゼ来日事件」の隠された真相』おうふう（2005）

六草いちか：『鷗外の恋 舞姫エリスの真実』講談社（2011）

森於菟：『父親としての森鷗外』ちくま文庫（1993）

小金井喜美子：『森鷗外の系族』大岡山書店（1943）

小金井喜美子：『鷗外の思ひ出』八木書店（1956）